

当行(単体ベース)の営業の概況

平成27年9月中間期の営業の概況 (平成27年4月1日～平成27年9月30日)

当中間期のわが国経済は、中国をはじめとする新興国経済の減速を背景に、輸出や生産に弱い動きがみられたものの、企業収益や雇用・所得環境が改善傾向で推移するなど、景気は緩やかな回復基調となりました。

地元香川県におきましては、企業の生産動向が持ち直す中、労働需要の高まりにより、個人消費や住宅投資に持ち直しの動きがみられるなど、景気は緩やかな回復を続けました。

金融面では、日経平均株価が企業の業績回復期待から、14年ぶりとなる20,000円台まで上昇しました。しかし、当中間期末にかけて中国景気の減速懸念を背景として、世界的にリスク回避の動きが強まると、市場の変動性が高まり、日経平均株価は平成27年3月末比1,818円84銭安の17,388円15銭、長期金利の指標となる新発10年物国債利回りは、平成27年3月末比0.05%低下して0.35%、ドル円相場は、平成27年3月末比21銭ドル安・円高の119円96銭となりました。

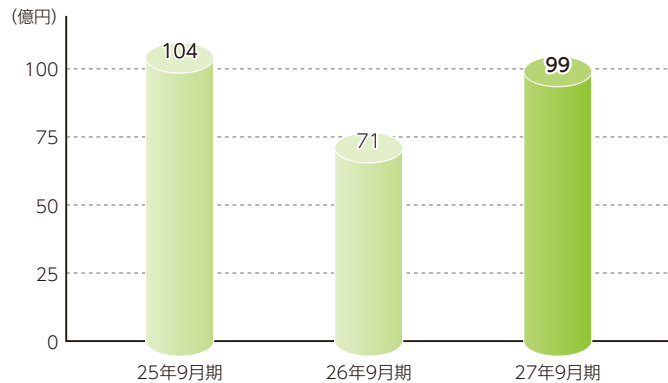
このような金融経済環境のなか、当中間期の業績は次のとおりとなりました。

実質業務純益の推移

実質業務純益は、債券関係損益の改善などにより、前年同期比28億99百万円増加して、99億99百万円となりました。

*実質業務純益とは

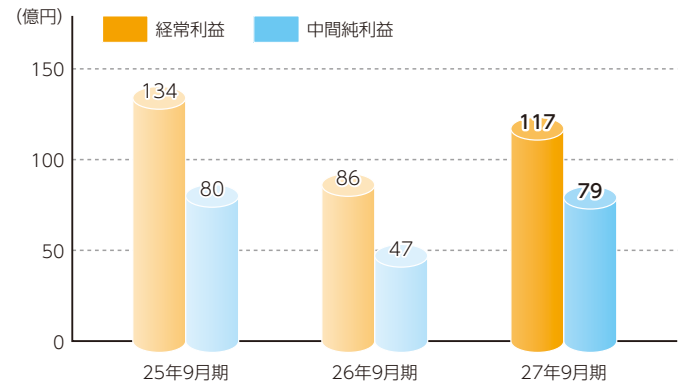
実質業務純益 = 業務粗利益(資金利益+受取手数料+債券関係損益など) - 経費



経常利益・中間純利益の推移

経常利益は、実質業務純益及び株式等関係損益の改善などにより、前年同期比30億68百万円増加して117億64百万円となりました。

また、中間純利益は前年同期比32億71百万円増加して79億93百万円となりました。



総預金・貸出金等の残高推移

●総預金

当中間期末の総預金残高は、個人、法人及び公共預金がいずれも増加したことにより、前年同期末比1,739億15百万円増加して、4兆371億72百万円となりました。

また、預り資産残高は個人年金保険、投資信託及び金融商品仲介が増加しましたが、公共債の減少により前年同期末比124億82百万円減少し、3,524億18百万円となりました。

●貸出金

当中間期末の貸出金残高は、公共向け貸出金が減少しましたが、法人及び個人向け貸出金が増加したことにより、前年同期末比672億12百万円増加して2兆7,270億29百万円となりました。

また、住宅ローンを積極的に取り組んでまいりました結果、当中間期末の住宅ローンの残高は、前年同期末比245億99百万円増加し、4,698億14百万円となりました。

